

いわて県

No. 3 発行 / 平成16年12月20日

創立50周年

岩手県農業会議

農業会議通信



創立50周年記念式典

今月のひとこと

「情報発信を心がけよ」

食料に対する関心が極めて高まっています。農畜産物も食料商品として消費者の皆さんから安全性と安心感が求められています。本県は誰もが認める自然豊かで農畜のバランスが取れた環境保全型の総合食料供給基地です。このブランド産地の周知徹底が完璧でしょうか。県レベルでは行政や農業団体が継続的に効果的な宣伝活動を展開していますが、地域や個々の農業経営者をみた場合、他産業の宣伝活動や国内外の食料産地に比較したら見劣りするように思えます。まず、農業経営者は自らの生産物に誇りと自信を持って自慢をし、地域と全県としては、効果的な戦略・手段を創意工夫することが大切です。そして県民一人一人が県産食材を愛し、自信を持って県内外に広く周知できる県民運動まで盛り上げたいものです。

岩手県農業会議

会長 中野昌造

半世紀の回顧 農業会議創立50周年記念式典開催

農業会議は去る、11月29日に盛岡市において創立50周年記念式典を増田知事をはじめ多くのご来賓と県内各地から180名のご参加を頂いて盛大に行いました。昭和29年に創立以来、今年後半世紀を迎える記念すべき節目の年になりました。戦後の農地改革で誕生した多くの自作農家の農地業務と生産指導等の農業改革からスタートし、その後激動の50年間を市町村農業委員会、全国農業会議所と一体となり農業委員会系統組織として本県農業の根幹である農地の法令業務や食料確保・農業経営の安定化に向けた業務に加えて、農業・農業者の意見の公表や建議等に努めてきました。

特に、30年代には、農業基本法の制定運動や農地法の改正運動には農業者の公的代表機関としての機能を十分発揮してきました。また、経済成長期には農地と農業を守り、バブル崩壊後は遊休地の解消や担い手確保・農業経営改善等に積極的に取り組んで本県農業の著しい発展の一翼を担ってきました。最近では、担い手不足等、脆弱化する経営基盤の建て直し対策として経営の法人化や認定農業者の育成と優良農地の確保、流動化対策等に万全を期しています。この間、初代野原正勝会長から6代目中野昌造会長まで受け継がれて、多くの会議員と延べ70名以上の職



員によってその責務を果たしてきました。

この式典に際して、増田知事から貴重な講話「競争力のある岩手の農業の構築に向けて」を頂きました。恵まれた立地条件を生かした消費者の求める総合食料基地として、その発展の可能性を示唆されました。

新しい展望に向けて 農業委員大会盛大に開催

去る、11月2日に盛岡市民文化ホールで当大会を県内の農業委員約1000名の参加を頂いて盛大に開催しました。改正された農業委員会法の施行日が前日であり、必置は堅持されたものの選挙委員定数の下限の条例への委任や下限面積の引き上げ等、スリム化改



正となったことから農業委員の関心を集めた大会となりました。大会決議は、大詰めを迎えている「食料・農業・農村基本計画」の

見直しに関する要請及び関連した県の農業施策の充実に関する要請が、担い手確保や経営安定対策等の議論を踏まえて決定されました。その内容については、県選出の国会議員には12月2日に、知事と県議会議長には12月24日に要請します。

また、永年の功績が認められて農政・農事功労者表彰や農林水産大臣表彰等に14名と全国農業新聞優良農業委員会等が表彰されました。

改正農業委員会法が施行

11月1日に施行となりましたが、そのポイントはまず、必置基準面積で北海道800^{ヘクタール}、都府県200^{ヘクタール}に引き上げされました。次に活動については農地に関する業務と農業経営の合理化に関する業務に重点化されました。また、選挙委員の下限定数は地域実情に応じて条例で定めることができること、選任委員の選出方法では、土地改

良区を加えることと議会推薦を5人から4人にするなどが定められました。その他、部会設置の弾力化や農業会議の協力強化等が定められましたので、関連する条例策定や会則改正、さらには市町村合併に伴う対応に万全を期す必要があります。

県内11振興局で農業経営基盤強化促進現地検討会を開催

本県農業の根幹である担い手の確保と農地の利用集積等を全市町村で取り組んでいます。10月下旬から11月下旬にかけて各振興局に管内市町村、農業委員会の担当者として認定農業者・農業者等が一堂に会して認定農業者・農業法人等の現状と課題や農地の利用集積等について検討を深めました。

現実的には認定農業者の掘りお越しは限界状態であり、営農類型や認定基準等の見直しが緊急的課題となっている地域が多いものの基盤のしっかりした認定農業者も育っており、それをベースとした法人化や集落営農の組織化が活発化している地域が目立ってきています。

今後は、地域に合った担い手育成を進めるために認定農業者を中心としながら熟度に応じて法人経営、集落営農、家族経営等に分類して支援することが大切です。また、地域の実態に合った営農類型も創意工夫していく必要があります。

「いわて農業法人ビジネススクール」開校

去る、11月4日に岩手大学農学部において、当スクールの入学式が20名の学生と関係者が出席して行われました。

このスクールは農業会議が事務局を担う県農業法人協会が岩手大学農学部運営を委託する新しい方式で、校長には岩手大学農学部長、副校長に岩手県農業法人協会会長と農業会議事務局長があたり、運営は岩手大学農学部付属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターが行うものです。

内容は、法人経営の経営改善に向けて財務管理を中心とした経営分析・診断・マネジメント方法を習得するとともに、経営戦略のためのマネジメントゲームから先見性、決断力、行動力等を養成することで経営者能力の向上をしていくものです。



21名の学生は大学の学生と同じように図書館等の施設や先生方の教えを受けることが出来ます。

地域マネージャーレベルアップ講座修了

去る、11月19日に盛岡市で当講座の最後の研修と閉講式が行われました。研修は女子栄養大学大学院の高橋正郎客員教授から「農業の構造改革と経営構造対策」と題して講演を頂きました。講座生に加えて県・市町村の職員等70名程の参加があり国の農政や三位一体改革等幅広い話題から地域マネージャーの意識改革と先見性をもって、その役割を担う必要性を強調されました。

その後、閉講式で岩手県農業会議の中野昌造会長が「地域の特性を十分發揮したマネジメントと多くの地域リーダーと議論して確実に効果の出る事業展開を期待する」と修了者を励ましました。



「生産者から経営者へ」増田知事トップスクールで講話

去る、12月8日に岩手大学付属図書館で、今年度最後の講座になる「いわて農業者トップスクール」を開催しました。

知事が当スクールの学生等を前に「競争力のある岩手農業の構築の必要性を」熱く述べられ、企業的な農業経営者に大きく発展するよう励まされました。また、引き続き岩手大学農学部の木村副学部長をコディネーターとして学生4名によるパネルディスカッション「トップリーダーとしての経営革新戦略」にもコメント

質問コーナー

いわて農業法人ビジネススクールがニュースで放映されましたが、入学するにはどうしたらいいですか。

(盛岡市 Y生)

回答

県内の農業法人が、近いうちに法人化を計画している農業経営者を対象にしています。地方振興局農政部又は岩手県農業会議にお尋ねください。なお、今年度は既に授業が始まっております。

(藤平主事)

認定農業者になるにはどうしたらいいか教えて欲しい。(二戸市 T生)

回答

今後5年間の経営改善計画を市町村に提出し、市町村長が定める営農類型から算出される農業所得目標等照合したうえで、計画の妥当性を審査して認定するものです。認定されると研修の機会や融資制度の活用、支援事業の対象等地域の農業を担う農業者として優遇されます。詳しくは市町村役場の農政担当課にお尋ねください。

(村上経営部次長)

この前「いわてめぐみフェア」で農業図書を購入しました。その時、書店には無い様々な図書がありました。どこで購入できるのですか。

(紫波町 N生)

回答

これからの農業経営者は情報収集が大切ですので、農業会議では情報提供として全国農業図書を斡旋しています。週一回の全国農業新聞も月600円で斡旋しています。市町村農業委員会事務局又は岩手県農業会議にお尋ねください。

(大宮 調査員役)

質問・意見をお待ちしています。

E-mail: info@iwate-ca.or.jp

1月～3月 農業会議の主な行事

- | | | | | | |
|--------|--------------------------------------|-------|----------------------------|--------------------------|-----------------------------------|
| 1月11日 | 第292回常任議員会議（盛岡市 エスポワールいわて） | 農学部） | 2月9日 | 市町村農業委員会事務局長会議（盛岡市 自治会館） | |
| 1月15日 | 新・農業人フェア in いわて（盛岡市 マリオス） | 2月10日 | 第293回常任議員会議（盛岡市 エスポワールいわて） | 2月17日 | 市町村農業委員会会長会議及び研修会（盛岡市 南部会館サザンパレス） |
| 1月17日 | 第4回いわて農業法人ビジネススクール（盛岡市 岩手大学農学部） | 2月中旬 | 農業法人異業種交流セミナー（盛岡市） | 2月中旬 | 知事と女性農業委員との懇談会（盛岡市） |
| 1月26日 | いわて農業者トップスクール修了式（盛岡市 メトロポリタンニューウイング） | 3月10日 | 第294回常任議員会議（盛岡市 エスポワールいわて） | 3月24日 | 第80回岩手県農業会議定期総会（盛岡市 エスポワールいわて） |
| 1月28日 | 認定農業者交流会（盛岡市） | | | | |
| 1月下旬 | 農業者経営セミナー（盛岡市） | | | | |
| 2月5日 | 新・農業人フェア '04（東京都） | | | | |
| 2月7～8日 | 第5回いわて農業法人ビジネススクール・修了式（盛岡市 岩手大学 | | | | |

編集・発行人／事務局長・佐々木由勝 〒020 0024

盛岡市菜園一丁目4番10号第二産業会館4階

電話〇一九 六二六

八五四五

印刷／川口印刷工業株式会社

トピックス

トップスクール公開講座

宮城県(有)伊豆沼農産社長が産直やレスランの経営と豚肉加工販売を展開する農業法人の実態を披露しました。原料供給を地域の農家が担う地域産業と位置付けています。スクール生等300名の賛否は様々。その後、経営の多角化について学生をパネラーにパネルディスカッションが行われました。

簿記講座シーズン到来

生産者から経営者への第一歩はまず、簿記のマスターから。農業会議と農業改良普及センター共催の講座が大船渡地方をスタートとして県内を巡回しています。今年は認定農業者を対象にしています。

農業会議創立50周年

一口に50年。50周年では二ユースにならないみたいですが、県農業は増産 減反。畜力 機械化。多収 品質食味。精農 耕作放棄・・・まさに

激動、改革の半世紀。21世紀の本県農業に生かしたいものです。

農業法人協会「めぐみフェア」で好評

「日頃のお礼に社長が来てます」「ピーマン百円詰め放題、大根、キャベツ、1個百円。ハム・ソーセージ3袋で千円・・・」農業法人5社が訪れたお客様に経営者自ら大サービスをしました。



編集後記

農業会議「50年のあゆみ」を編集発刊しました。吉田OB職員と職員諸君のご労苦で激動の半世紀の記録が綴られました。回顧と新しい展望に活かして下さい。

農業会議ホームページを立ち上げました。まだ、工事中箇所もあり不十分ですが、多くの皆さんとキャッチボールをしながら完成していきますので、ご愛顧ください。

<http://www.iwate-ca.or.jp>

情報が大切な時代です。農業委員大会やめぐみフェアでは認定農業者や農業法人向けの全国農業図書が好評で、多くの人に求められました。

農業・農村が大変革の時代に突入しています。的確な情報が経営の安定化に不可欠です。全国農業新聞は週一回の発行で効果的ですので是非、活用して下さい。

担い手の年金対策は欠かすことが出来ません。農業者年金制度の理解を深めて加入頂くことが何よりです。担当が奔走していますので声をかけて下さい。

三位一体改革で地方主導型の農政に期待も、切り詰め予算では 頭と足の戦略展開になります。地域アイデアを提案しましょう。

創立50周年を記念して発刊した「農業会議通信」も今年最後になりました。「愛読頂きましてありがとうございます。いい年を迎えられますようお祈りします。」 (由)